# ＩＢ－４　南部アフリカの砂漠は拡大しているか

情報学部　岩崎 一孝

［研究の概要］

1970年代や１９８０年代初頭に、サハラ南縁地域では干ばつ年が続発し、砂漠化が進行したことで知られて、この地域について多くの研究がなされた。赤道を挟んだ南半球側にも、サハラと同じ緯度帯にナミブ・カラハリ砂漠が分布している。1980年代初頭には、この地域にも干ばつが発生し地域社会に大きな影響を与えた。しかしこの地域の気候変動に関する研究や気候変動が地域社会に及ぼした影響についての研究はほとんどあまり多くなかった。

そこで、本研究の目的は、南部アフリカのウッドランドから乾燥サバンナ地域を含むザンビア・ジンバブエ周辺地域の降水量変動の実態とその変動要因を、特に最近10年に注目して明らかにすることを第一の目的とする。第２にこの降水量変動が地域生態系や地域社会にどのような影響を及ぼしているかを第２の目的とする。

本稿では，本プロジェクトによりとりあえず入手したデータをもとに発表した成果（岩崎，1998）をもとに，南部アフリカ研究対象地域の気候の平年の状態について考察してみたい。

［研究対象地域］

本稿の研究対象地域は，ザンビア，マラウイ，ジンバブエ，モザンビークの４国にわたる地域である。この地域は，ザイール，カラハリ両構造盆地を取り囲むように発達する高原状の大地と，海岸部の低地帯およびリフトバレー（大地溝帯）に属する構造谷や構造湖によって特徴づけらる。

ザンビア，マラウイからモザンビークのザンベジ川北側の内陸部にかけての地域，およびジンバブエの国土の大半は，標高900メートルから1,500メートルの高原状をなす。ジンバブエ南部から高度は減少し，モザンビークのザンベジ川南側の地域では海岸平野が広がり，海岸線に沿って，砂州やラグーンが発達している。

東アフリカを縦断するリフトバレー（大地溝帯）の南端はマラウイからモザンビークに達し，平均幅80キロにも及ぶ地溝により，マラウイ湖を初めとする湖沼群が形成されている。マラウイ湖は湖水面標高475m，面積約22,490㎢，最大深度706mでタンガニーカ湖に次ぐ深度と面積があり，アフリカ有数の湖になっている。

リフトバレーの南端はまたザンビア南東部に伸び，ルアングア谷を形成し，ザンビア・ジンバブエ国境を走るザンベジ河谷とともに，南部アフリカに広がる高原を分断している。ザンベジ河谷には，世界３大瀑布のひとつビクトリア滝があり，その下流にはカリバダムの建設によって生まれた世界有数の人工湖カリバ湖がある。

［平均値からみた南部アフリカの気候］

雨は，海岸部や山岳部を除いて，雨季に集中する。図１は年平均降水量の分布図である。大まかに言えば，降水量は北と海岸部で多く，ザンビア北西部や北部で1,500mmを越え，南に行くほど少なく，ジンバブエ南端で400mmを下回る。マラウイとザンビアの国境，マラウイとモザンビークの国境，ジンバブエとモザンビークの国境などの山岳地帯は特に降水量が多く，2,000mmを上回る地域も存在する。

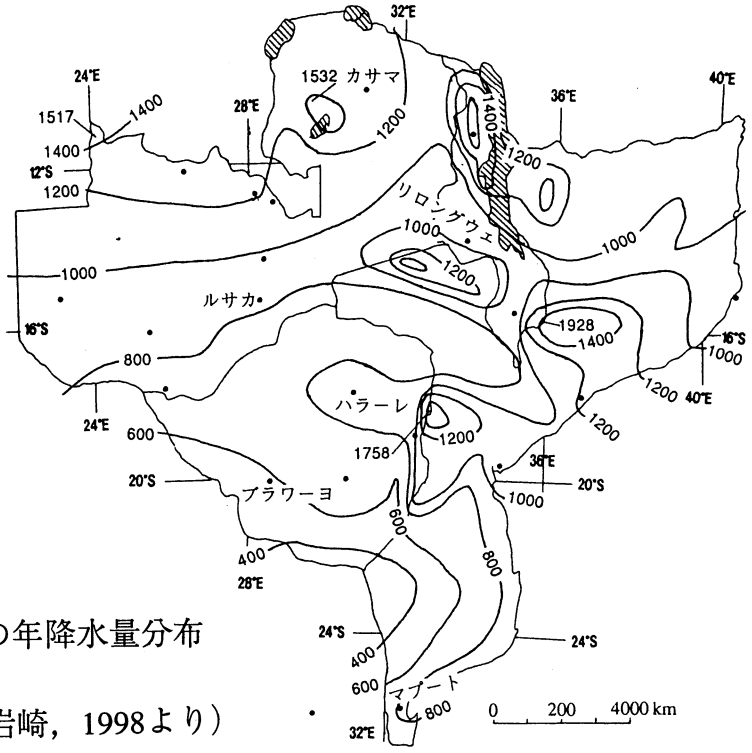



図１　南部アフリカの年降水量分布

（岩崎，1998より）

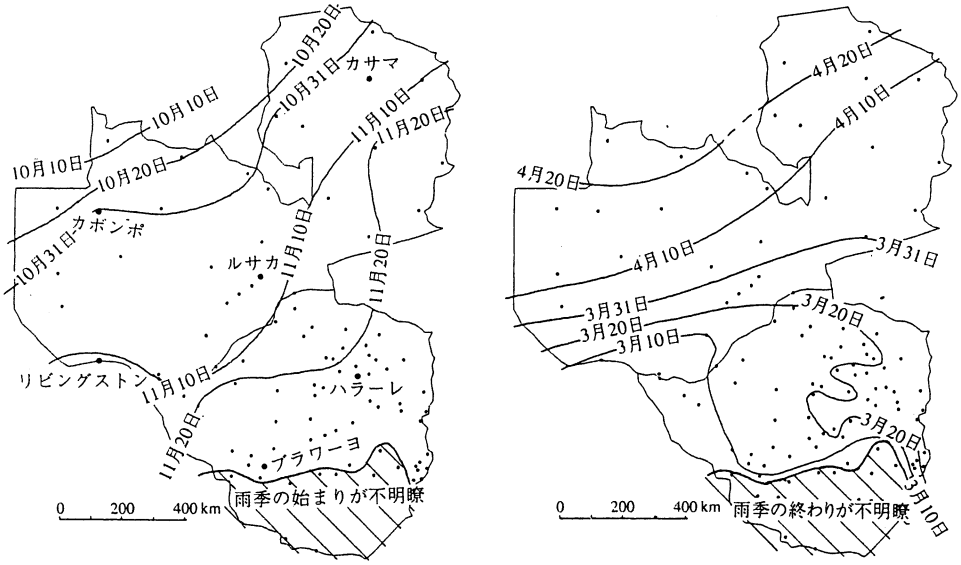



図２　南部アフリカの雨季の入りと雨季の明け（岩崎，1998より）

雨季の始まりは，図２で示したようにザンビア北西部で早く，ジンバブエで遅い。雨季になると日変化が明瞭で，朝は晴れるが午後夕立になる。降水日数はサンビア北西部では１カ月に20日以上であるが，ジンバブエ南部では10日にも満たない。　雨季の終わりはジンバブエで早く，ザンビア北西部でもっとも遅い。乾季になると，ザンビアやジンバブエでは，雨はまったく降らないといっても過言ではなく，雨季と乾季のコントラストが明瞭である。

［文　献］

岩崎一孝 (1998)：東南アフリカ．福井英一郎 (編)『アフリカII』　朝倉書店，31～71.